

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小015 町田市立つくし野小学校

学力調査等の状況	
算数は、全国・都平均を上回ったがA層～D層までの層にもほぼまんべんなく児童が分布している。ただ、A層に関しては、昨年度に比べやや減少している。 国語も全国・都平均を上回った。比較的A層に多くの児童がいる。	

見えてきた課題	
算数は都の平均正答率を上回ってはいるものの、領域別に見ると、図形とデータの活用の正答率が他の領域と比べて都の平均正答率とあまり差がない。2領域を強化することが課題である。国語も都の平均正答率を上回ったものの、思考・判断・表現力を要する領域では都の平均に近い傾向にある。登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に読み取る力や、集めた材料を目的や意図に応じて分類したり関係付けたりし、問に答える力を高めることが課題である。	

授業をデザインする8つの取組について	
<b>ICT機器の活用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像、画像などの視覚教材で手順や見本を示し、より多くの児童が意欲的に授業に参加できるようにする。</li> <li>発達段階に応じたChromebookの活用を行い、児童の学習に生かす。</li> <li>本時のねらいを達成するための有効な手段の一つとして、ICT機器の活用の仕方を探り、授業実践を行う。</li> </ul>
<b>見通しをもたせる導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、「めあて」を提示することで、児童がめあてをもって学習に取り組む姿勢を習慣化させる。また、何を学ぶか、どのように学ぶかなど、見通しをもたせる。</li> <li>授業の導入部分にICT機器を活用するなどして、課題の提示を工夫することで、児童の学習への興味、関心を高める。</li> </ul>
<b>振り返りの設定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の終末に「振り返り」の時間を設けることにより、児童がその時間を振り返り、学習内容を定着させる。</li> <li>単元のゴールを設定することで、児童がその時間にやるべきことを明確にして授業に取り組めるようにする。</li> </ul>

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
<b>国語科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元毎に学習の流れを明確に提示し、見通しをもたせることで主体的に学習に臨む。</li> <li>段落相互の関係や言葉のつながりを丁寧に読み取ることで文全体の要旨(内容)をとらえられるようにする。</li> <li>読み聞かせや朝読書、図書の学習を通して読書への関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを明確にし、その授業で何を学んだか振り返りを行う。</li> <li>ノートやワークシートを活用し、自分の思ったことを書く活動を取り入れ、書くことに慣れるとともに文章の内容を理解させる。</li> <li>朝読書や図書、家庭学習での音読練習を通して、読書への関心を高めるとともに、語彙力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の「見通しをもと」のページを単元の中で提示し、見通しをもたせうえで学習できるようにする。</li> <li>モジュールの時間の漢字の学習で辞典を使用している児童が増え、活用する習慣がついたり、語彙が増えてきたりしている。引き続き指導を続けたい。</li> <li>説明文や作文指導の中で前後の文のつながりを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のゴールを示して取り組むことで、見通しをもって学習に臨むことができる。</li> <li>全体指導の中で日常的に意見交換をする場を設け、日頃から他の考えを聞いて自分の考えを深められるようにする。</li> <li>「本の世界を広げよう」で本の紹介カードを作り、掲示することで児童の読書への関心を高める。</li> </ul>
<b>社会科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞の記事や資料を積極的に活用することで、日常の社会事象に着目する機会を増やし、学習の理解につなげる。</li> <li>授業での話し合い活動を増やすことで、様々な現代の社会問題や歴史的事項について自分の考えをもち、友達と話し合うことで、自分の考えをさらに深められるようにする。</li> </ul>	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近なニュースを話題に取り上げて紹介し、社会の事象に興味関心をもたせる。</li> <li>社会科での問題解決能力を育てるために、生活科の学習を通して、課題を見つけ、自分で調べて解決しようとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像資料を効果的に活用することで学習内容の理解につながるようにする。</li> <li>学習内容を自身の生活と関連付けて、学習できるように工夫していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や資料集だけではなく、インターネットを活用して調べて、様々な学習内容を関連させる。</li> <li>難しい学習用語や児童に馴染みのない学習内容においては積極的に映像資料を活用することで学習内容をより深められるようにする。</li> </ul>
<b>算数科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年による習熟度コース別の授業を行い、基礎的な問題、発展的な問題など実態に応じた授業展開を行う。</li> <li>プリント教材やオンライン教材などを日常的に活用し、既習事項の定着を図る。</li> <li>全国学力テストや東京ベシックドリルの結果をもとに、各学年の実態に合った指導形態を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数制で授業をすすめ、きめ細やかな指導を行う。</li> <li>具体物(ブロックなど)を操作してやり方を考えたり、視覚教材(ICTを含む)を用いてより理解しやすくする。</li> <li>スモールステップを意識した指導計画のもと、基礎から発展的な問題に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材や実物投影機を効果的に活用し、学習内容の理解につながるようにする。(特に図形、作図、筆算など)</li> <li>学習課題を自分の言葉で説明する活動を繰り返し行い、考え方を表せるようにする。</li> <li>練習プリント等を活用し必要があれば学年を遡って学習をして、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材や実物投影機を効果的に活用し、学習内容の理解につながるようにする。(特に図形、作図、データの整理など)</li> <li>友達の考えのよさや自分との相違点を考えより良い考えを見つけ出せるようにする。</li> <li>キュービナやベシックドリルを活用し習熟を図る。</li> </ul>
<b>理科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に観察、実験ができるように、体験的な活動を工夫して設定する。</li> <li>問題解決の学習を各学年が進められるようにするために、各学年で教材研究を行う。</li> <li>児童一人ひとりが十分に実験、観察に取り組めるようにするために、理科室、学校周りの教材整備を進める。</li> </ul>	<p>(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活科で野菜を育てたり、虫を探したりすることで、花の作りや虫の体の作りなどに関心をもたせ、3年生の理科につながるように意識して指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験から予想を立てて、実験等を行い、学習のまとめでも日常生活と結びつけることで学習をより身近なものにしていく。</li> <li>タブレット型パソコンや実物投影機を活用し、実験の手順や観察物を映し出し、理解しやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ものの燃え方と空気」や「人や他の動物の体」など、実験の結果を日常生活と結びつけることで、学習内容を生活でも活用できるようにする。</li> <li>タブレット型パソコンで映像教材を活用し、学習の定着を図る。また学習内容からさらに疑問に感じたことを調べ知識を広げられるようにする。</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や地域の自然との関わり、様々な人との関わりを通して体験を積みながら、感性を豊かにさせていく。(1年生へ2年生から手紙を各活動、1年 公園にて校外学習、2年 地域巡り(可能であれば))</li> <li>1年はあそび、2年は好きな野菜を育てる活動を通し、植物がある生活の良さを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを明確にし、その授業で何を学んだか振り返りを行う。</li> <li>様々な人や自然のものとの関わりを体験させ、感性を豊かにさせていく。</li> <li>体験を通して、発見や疑問をもち、みんなで考えて解決しようとする気持ちを育てる。</li> </ul>		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶ楽しさ、表現する楽しさが得られるよう、指導ポイントを明確にし、個々を認めることができるよう授業を工夫する。</li> <li>互いに聴き合い、認め合い、アドバイスできるような雰囲気作りと言語活動の充実をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽教材については支援DVD等で視覚的に示し、興味をもたせ、理解できるよう工夫する。</li> <li>発表や実技テストで発表し、拍手や言葉で互いを認め合う雰囲気を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援DVD等で視覚的に示し、興味をもたせ、理解できるよう工夫する。</li> <li>発表や実技テストで発表し、拍手や言葉で互いを認め合う雰囲気を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援DVD等で視覚的に示し、興味をもたせ、理解できるよう工夫する。</li> <li>グループ発表や実技テストで発表し、拍手や言葉で互いを認め合う雰囲気を作る。</li> <li>音楽発表に向けて、意欲をもって演奏出来るように選曲をする。</li> </ul>
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の制作途中や完成後に毎回鑑賞活動を取り入れることで、児童の表現力や思考力の向上を図る。</li> <li>作品を作る楽しさを味わわせるために、導入時に資料の提示の仕方や、声掛けの工夫をする。</li> <li>作品展に向けて制作意欲をもたせ、技能や表現力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の制作途中、完成後に友達からの感想を言い合う活動を取り入れることで、さらに良くしようとしたり、自分の良さに気付かせたりする。</li> <li>自分の作りたいものを丁寧に作り上げる気持ちや意欲をたかめるようにする。</li> <li>作品の見本などの資料を見せることで、どの児童も取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内に、3～6年の図工の作品を展示することで、多面的な表現方法を鑑賞することができ、自分の表現力の向上につなげるよう意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内に、3～6年の図工の作品を展示することで、多面的な表現方法を鑑賞することができ、自分の表現力の向上につなげるよう意識している。</li> <li>展覧会に向けて、丁寧に作り上げようとする気持ちを高めている。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の生活を見直す指導場面を設定し、衣・食・住に分けて家庭生活の仕事の理解につなげる。</li> <li>衣食住の家庭生活のあり方を通して、家族の一員としてよりよい生活を目指して工夫する意欲をもたせる。</li> <li>家庭生活に関わる活動を通して、実践できる力を育てる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と協力して調理をする機会を設定し、家庭における「食」の工夫に気づかせ、家族の一員として意欲的に関わろうとする意識を持たせるようにする。</li> <li>ナップザック制作を通して、5年時学習したミシンや手縫いの基本を活用し、自分で作り上げる喜びと生活を豊かにする工夫を実感できるようにする。</li> </ul>
体育科	<ul style="list-style-type: none"> <li>その時間に身に付けさせたい技能に繋がる動きを準備運動に取り入れる。</li> <li>運動の楽しさを味わわせるために、運動量の確保をするとともに、学習カードを作成し、グループで学習する場面を設け、話し合い活動(2学期以降)を行うことで、考えを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあての運動に繋がる動きを準備運動で行う。</li> <li>学習カードを活用して、自分のめあてをもって練習したり、友達と教え合ったり、助け合ったりすることで、意欲を高めてすんで取り組むようにする。</li> <li>クロムブックを使用して、手本となる動き方動画で示し、どの児童も動きのイメージがもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種目に応じて、基本となる動きを身に付けてから、ゲーム等を行う。</li> <li>クロムブックを使用して、個人の動きを撮影することで、自分や友達の課題を見つけたり、チームでの作戦を立てたりすることに役立つ。</li> <li>学習カードを使って、その日のめあてを決めて運動に取り組む、振り返りを行うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動には、種目に応じた部位をほぐす動きを取り入れる。</li> <li>学習カードを用いて、個々の技能面の成果を実感できるようにする。また、意欲につながるような支援を行う。学習全体の流れが児童自身ももてるようにし、準備や片付けを協力して行い、振り返りができるようなカードにする。</li> <li>単元の始めに、模範になる映像を見せ、動きのイメージがもてるようにする。</li> <li>クロムブックの動画をを用い、個々の技能面について視覚化し、グループで教え合いの機会を設定する。</li> </ul>
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材を活用して話す聞くスキルを高めつつ、書く活動を継続して行う。</li> <li>自分の身近なことについて内容を整理して簡単な表現で伝えられるように、ICT等を活用し、友達と伝え合う活動を授業で多く取り入れる(2学期以降)。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>主に担任単独で行う授業の時間では、「書く」ことを中心に行い、ALTのいる授業では、「話す」「聞く」のスキルが身につくような流れを設定する。</li> <li>アクティビティ等を通して、楽しく学習ワードを身につける機会をつくる。</li> <li>プレゼンテーションでは、スライドなどのアプリケーションを用いて、発表の幅を広げる。</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標にある「よく考える子」を指導の柱とし、特に「思いやり」「認め合い」の価値項目の授業を工夫する。</li> <li>校内全体で道徳的価値について共通理解し、児童が発達段階に応じて自己の生活をふりかえるような授業を実践し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の「考える子・元気な子・助け合う子」と教材の価値項目を踏まえ、授業を工夫する。</li> <li>児童の発達段階に応じて、学習カードを活用したり、役割演技をしたりして深く考えさせる。</li> <li>自己の生活を振り返り、これからの生活に生かしていけるような心情や態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の「考える子・元気な子・助け合う子」と教材の価値項目を踏まえ、授業を工夫する。</li> <li>児童の発達段階に応じて、学習カードを活用したり、友達の考えを聞いたりして深く考え、想像することによって、自己の生活を振り返り、これからの生活に生かしていけるような心情や態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標の「考える子・元気な子・助け合う子」と教材の価値項目を踏まえ、授業を工夫する。</li> <li>児童の発達段階に応じて自己の生活を振り返り、自己を構築できるような学習カードを作る。</li> <li>学習を通して、実生活に生かせるような声掛けを行い、生かしていた場面を学級全体に広め、価値づけしていく。</li> </ul>
外国語活動 英語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTを活用した授業により、児童の外国語活動への意欲を高める。</li> <li>中学年ではチャンツやデジタル教材を用いた活動を中心に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTとともに、外国語活動への関心や意欲を高め親しませる。</li> <li>低学年では、絵本や歌、ゲームなどの活動を通して、楽しく外国語に触れ発音しやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を通して、外国語の発音や表記に慣れ親しませる。</li> <li>自分の好きなものなど、身近な題材について、友達と簡単なやりとりができるようにさせる。</li> <li>チャンツなどの音声教材や映像教材を活用して、外国語の発音になれさせる。</li> </ul>	/
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年はプレゼン発表にクロムブックを活用し、中学年はマウスやキーボード入力などの基本的な練習をすることで、スキルを向上させる。</li> </ul>	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロムブックの基本的な操作を覚え、ジャムボードやスライドに調べたことや、自分の考えをまとめられるようにする。ローマ字入力に慣れる。(促音便、撥音便など)</li> <li>ゲストティーチャーを招いた授業を通し、福祉について自身の生活と結びつけながら、教科横断的な視点で学習をすすめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生では、稲の成長記録や川上村移動教室の様子をクロムブックを用いて行いてまとめたものを4年生に発表する等の機会を設定し、意欲を高めさせる。</li> <li>6年生では日光移動教室のまとめをクロムブックを活用して行い、5年生に発表する機会を設定する。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の特色である「たてわり班活動」を様々な場面で取り入れ、異学年交流を活発に行えるようにする。</li> <li>異学年、学級集団活動を通して、ルールを守り、助け合う姿勢を育てたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会やたてわり遊びなど「たてわり班活動」で異学年交流を行う。</li> <li>「たてわり活動」、「学級活動」を通して、楽しく過ごすにはルールが必要であることを学ぶ。</li> <li>みんなでルール守って過ごすと、安全に楽しく過ごせることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たてわり班活動」を通して異学年の児童と関わることで、3・4年生としてできることを考えさせる。上級生の在り方から、高学年としての行動を学ばせる。</li> <li>「たてわり班活動」や「学級集団活動」を通して、ルールを守りつつ、活動をより楽しむための工夫を考えさせることで、互いに助け合って活動することのよさに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生としてたてわり班の中でできる役割を考えさせ、実行させる。最高学年に向けて、6年生がどのような動きをしているかを意識して見ておくよう指導する。また、3学期は中心となり活動をするので、準備をきちんとできるように計画を立てさせる。</li> <li>6年生は、班長・副班長を中心に計画を立てられるようなカードを用意する。6年生全員で、取り組めるよう事前に話し合う時間を設定する。</li> </ul>